

2002年度（平成14年度）第1回理事会記録

日時：

2002年（平成14年）3月29日（金）19:00～22:00

場所：

アクトシティ浜松コンgresセンター 5階501会議室

出席者：

廣川信隆（理事長）、井上芳郎、高田邦昭、佐藤達夫、高野吉郎、山科正平、杉浦康夫、田中重徳、野条良彰、河田光博、仙波恵美子、村上宅郎、瀬口春道、猪口哲夫（以上理事）、上田秀一、内山安男（以上監事）、近藤尚武（オブザーバー：補充選挙による理事就任予定者）、山下昭（第107回総会・全国学術集会会頭）、井出千束（第16回国際解剖学会議組織委員会委員長）、依藤宏（幹事）、小森雄一郎（学会事務センター）

欠席者：

塩田浩平、村田長芳（以上理事）

廣川理事長、山下第107回総会・全国学術集会会頭、杉浦第3回APICA実行委員長、井出第16回国際解剖学会議組織委員会委員長の各挨拶が行われた。

I. 議事録署名人の選任

高野吉郎（東京医歯大）並びに杉浦康夫（名古屋大）の両理事が議事録署名人に選任された。

II. 前回会議記録の確認

2002年度（平成13年度）第4回理事会（平成13年11月30日）記録（案）が確認された。

III. 報告事項

1. 倫理委員会報告

猪口庶務担当理事より、倫理委員会（河野邦雄委員長）からの「篤志献体の研究への利用について」の報告が行われ、その内容、案文に関する意見が寄せられた。

2. 2002年度（平成14年度）版会員名簿刊行について

猪口庶務担当理事より2002年度（平成14年度）版会員名簿刊行に関する進捗状況について報告がなされた。

3. 「Anatomical Science International」及び「解剖学雑誌」刊行について

高田編集担当理事より、刊行予定、今後の見通し、和文誌の編集方針と新しい投稿規

定などについて報告があった。

4. 第16回国際解剖学会議準備状況報告

河田企画・渉外担当理事より、第16回国際解剖学会議の準備は学術会議との共催が認可されるなど、井出組織委員長のもとに順調に進行している旨、報告があった。

5. 2001年度（平成13年度）会計報告

IV. 審議事項7. 「2001年度（平成13年度）決算および監査報告の件」でまとめて行われた。

IV. 審議事項

1. 東北支部理事補充選挙結果の件

堀口理事（岩手医大）の逝去による東北支部理事補充選挙が選挙管理委員会（大河原重雄委員長）の管轄下に行われ、近藤尚武教授（東北大）が最高票を得て当選した旨報告があり、審議の結果承認された。

2. 2003年度（平成15年度）科研費審査員候補者選出の件

2003年度（平成15年度）科研費審査員候補者選出については、選挙管理委員会管轄下の2段階選抜により解剖学一般30名、神経解剖学15名の候補者がリストアップされていた。しかるに3月25日付で学術会議解剖学研連平野委員長より通知された候補者推薦依頼によると、解剖学会に対しては、解剖学一般45名、神経解剖学18名の候補者を推薦するよう求められ、前者で15名、後者で3名を追加する必要が生じた。推薦の締め切りは4月12日であるのでこの点につき対応を協議した結果、以下の措置を取ることになった。

A. 解剖学一般：以下の要領で15名を追加する。

i. 2002年度推薦者のうち、今回推薦リストに含まれていない方：計6名

ii. 今回の選挙の際、学術評議員による推薦を受けたが一次候補者リストに含まれなかった方：計7名（2001～2002年継続の方を除く）

iii. 残り2名の追加推薦については理事長に一任する。

但し、「解剖学一般1」、「解剖学一般2」の区分については推薦委員会における区分を参考とし、上記i, iii項の方については理事長に一任する。

B. 神経解剖学：以下の要領で3名を追加する。

神経解剖学には上記A-iに対応する方が存在しないのでA-iiに対応する該当者から3名を抽出して18名とし、これを第1段、第2段に振り分ける。その方法は理事長に一任する。

3. 2002年度（平成14年度）奨励賞選考委員会編成の件

廣川理事長より、上記1年間の奨励賞選考委員会委員候補者12名の名前が提示され、審議の結果、承認された。

4. 申請による学術評議員の件

予め送付されていた資料に基づき審議が行われた。規約による評議員数に比し学術評議員の数が非常に多いため、選出にはある一定の線を引く必要があることなどの意見が出された。その結果、今後承認には学術評議員選出規約1（3）の要件につき検討

後、理事会において投票を行い、過半数以上の賛成をもって承認とすることが合意された。投票の結果、14名の申請者のうち10名が過半数の賛成を得て承認とされた。

5. 永年会員の件（2002年度総会/学術評議員会資料 審議事項2.参照）

13名の新永年会員が承認された。

6. 2001年度事業および業務監査報告の件（2002年度総会/学術評議員会資料 審議事項4.参照）

- A. 学術集会開催状況
- B. 会議開催状況
- C. 内外学術団体との協力ならびに連絡
- D. 委員会報告

猪口庶務担当理事より、上記の件につき総会資料に基づいて報告された。更に

- E. 研究の奨励および業績の奨励
- F. 技術士認定

上記の案件につき、河田企画・渉外担当理事より総会資料に基づき説明が行われた。

- G. 学会誌の刊行状況

高田編集担当理事より資料に基づき説明がなされた。

審議の結果、A～Gの報告はいずれも異議なく承認された。

7. 2001年度会計報告および決算、監査報告

山科会計担当理事より、2001年度総会/学術評議員会資料(p19～p28)に基づいて説明ののち、内山監事から監査報告がなされた。審議の結果、異議なく承認された。

8. 2002年度事業計画および予算の件

総会/学術評議員会資料（p33～35）に基づき、2002年度事業計画につき猪口庶務担当理事から報告があり、引き続いて山科会計担当理事より2002年度予算につき説明があった。これらの件につき審議の結果、原案通り承認された。

9. 名誉会員・永年会員について

名誉会員・永年会員に方々へのアンケート結果（総会/学術評議員会資料p2～3）を踏まえ、以下の名誉会員推薦規約改定案が提出された。

理事長は理事会の推薦に基づき、学術評議員会および総会の議を経て、以下の者に名誉会員の称号を贈ることができる。

- A. 解剖学の進歩と発展に著しい功績があったと認められる者。
- B. 永年会員の称号を贈られたのち、5年以上の経歴を有する以下の者。
 - i. 理事長経験者
 - ii. 総会・全国学術集会会頭経験者
 - iii. 国際解剖学会会長経験者

この改定案について審議された結果、原案通り承認された。

10. その他

- A. 平成15年度以降、日本解剖学会総会・全国学術集会抄録集の製作並びに頒布について

猪口庶務担当理事より、第108回日本解剖学会総会・全国学術集会の会頭（予定）としての立場から、上記「抄録集」の学会員全員への配布と学会参加者への

有料配布については矛盾するのではないかとこの疑問が寄せられ、予約者のみの有料配布とするか、または一定の補助金等を学会で用意し、開催校に製作させる代わりに全員に無料配布するかのいずれかを認めるよう要望があった。この件につき審議した結果、第108回総会については200万円の補助金を学会から出し、後者の方式をとること、また将来に対しW e bを利用した抄録集の製作を検討するためアドホックの委員会をつくることが決定された。

B. 解剖学用語委員会からの要望

解剖学用語委員会（委員長 清木勘治 東海大教授）で検討、編集を進めていた「日本語による解剖学用語」は既に完成し、理事長に答申済であるが、その発表にあたっては冊子体で配布して欲しいとの要望が添えられている。この件につき審議した結果、冊子体での配布は財政的に難しく、それを補完する形でインターネット上で公開することが適当であると結論された。